

**令和5（2023）年
京都観光総合調査の結果について**

この度、令和5（2023）年の京都市における観光客[※]の動向等について、令和5年1月から12月までの調査結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

※ 観光客とは、観光目的だけでなく、市外在住で通勤、通学以外の目的（ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等）で入洛した人全てを含みます。

- 「京都観光総合調査」は、例年、日本人・外国人の観光客それぞれに四半期毎に面接調査等を行い、観光消費額や観光客数をはじめ観光客の動向等を調査するもの。
- 令和2～4年は、コロナ禍の影響で面接調査が実施できないことなどから一部項目が調査できなかったが※1、令和5年は、面接調査の実施が可能となったことなどから、全ての項目を調査することができた。

主要調査結果

- 令和5年は、国による水際対策の終了や新型コロナの5類移行などを背景に、観光需要が本格的に回復する1年となった。

1 観光消費動向調査

- 観光消費額及び経済波及効果はコロナ禍前より大幅に増加

▶ 観光消費額	1兆5,366億円 ^{過去最高※2} (元年比 +24.3% (1兆2,367億円)) (参考値) 4年 1兆 179億円※3
▶ 経済波及効果	1兆7,014億円 ^{過去最高※2} (元年比 +25.4% (1兆3,569億円)) (参考値) 4年 1兆1,040億円※3

2 観光客統計

- 観光客数はコロナ禍前を下回るものの、宿泊客数はコロナ禍前を上回る結果に

▶ 観光客数	5,028万1千人 (4年比 +15.3% (4,361万2千人)、元年比 ▲6.0% (5,351万5千人))
▶ 宿泊客数 (実人数)	1,474万5千人 (4年比 +52.2% (969万0千人)、元年比 +12.0% (1,316万6千人))
【宿泊客数内訳】	
・ 日本人宿泊客数	938万8千人 (4年比 +3.0% (911万4千人)、元年比 +0.2% (936万7千人))
・ 外国人宿泊客数※4	535万7千人 ^{過去最高※2} (4年比 +830.0% (57万6千人)、元年比 +41.0% (379万9千人))
▶ 修学旅行生数 (実人数)	81万1千人 (4年比 +9.2% (74万3千人)、元年比 +15.2% (70万4千人))

※1 一部調査結果が出揃わなかったため、令和2～4年は「京都観光総合調査」と区別し、「観光客の動向等に係る調査」として発表。
 ※2 調査開始（昭和33年）以降の実績に基づく。調査手法の変遷等を考慮せず単純比較した場合、本調査結果が過去最高に当たる。
 ※3 令和4年は全国共通基準に基づかない本市独自推計。他の年と時系列による比較はできない。
 ※4 外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含む。

主要調査結果（概要）

1 観光消費動向調査 (P.25～)

▶観光消費額、経済波及効果

区分	令和5年	令和4年 本市独自推計※1	令和元年
観光消費額	1兆5,366億円	1兆 179億円	1兆2,367億円
経済波及効果	1兆7,014億円	1兆1,040億円	1兆3,569億円

・観光消費額単価

区分	全体平均	宿泊客平均	日帰り客平均
日本人	23,809円 (20,267円)	63,986円 (54,970円)	12,650円 (11,054円)
外国人	71,661円 (37,437円)	87,208円 (60,991円)	23,726円 (19,766円)

括弧：令和元年の値

2 観光客統計 (P.9～)

▶観光客数

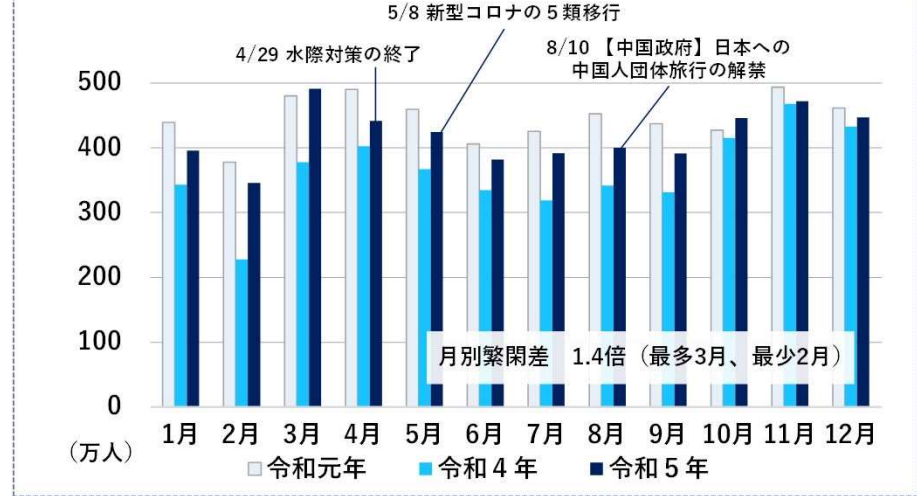
区分	令和5年	令和4年	令和元年
観光客数	5,028万1千人	4,361万2千人	5,351万5千人

(参考) 観光客数内訳

区分	令和5年総数	日本人	外国人※2,3
日帰り	3,553万人 (4,035万人)	3,380万人 (3,529万人)	173万人 (506万人)
宿泊	1,475万人 (1,317万人)	939万人 (937万人)	536万人 (380万人)
合計	5,028万人 (5,352万人)	4,319万人 (4,466万人)	709万人 (886万人)

括弧：令和元年の値

【図表1】月別観光客数



▶宿泊客数

平均宿泊日数 R⑤ 1.61泊、R④ 1.42泊、R① 1.61泊

区分	令和5年	令和4年	令和元年
実人数	1,474万5千人	969万0千人	1,316万6千人
延べ人数	2,375万1千人	1,379万6千人	2,125万3千人

・日本人宿泊客数

平均宿泊日数 R⑤ 1.30泊、R④ 1.38泊、R① 1.38泊

区分	令和5年	令和4年	令和元年
実人数	938万8千人	911万4千人	936万7千人
延べ人数	1,222万7千人	1,253万3千人	1,295万9千人

・外国人宿泊客数※3

平均宿泊日数 R⑤ 2.15泊、R④ 2.19泊、R① 2.18泊

区分	令和5年	令和4年	令和元年
実人数	535万7千人	57万6千人	379万9千人
延べ人数	1,152万4千人	126万3千人	829万4千人

▶修学旅行生数

平均宿泊日数 R⑤ 1.63泊、R④ 1.58泊、R① 1.73泊

区分	令和5年	令和4年	令和元年
実人数	81万1千人	74万3千人	70万4千人
延べ人数	131万7千人	117万2千人	121万4千人

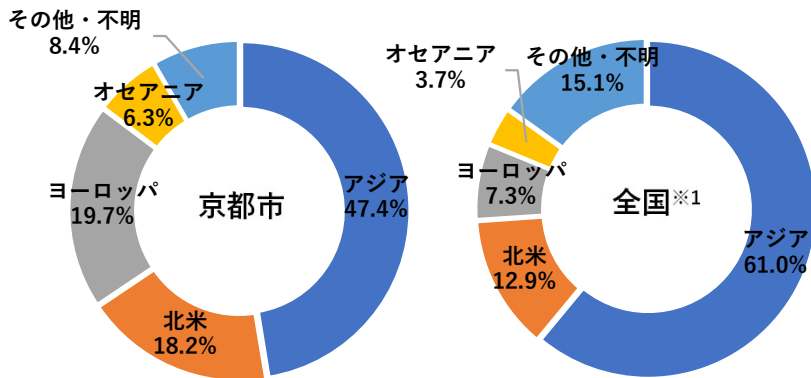
※1 令和4年は全国共通基準に基づかない本市独自推計。他の年と時系列による比較はできない。

※2 外国人観光客数（合計）は「訪日外客数」（日本政府観光局（JNTO））に「訪日外国人の京都府訪問率」（観光庁）を乗じて算出した参考値。

※3 外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含む。

主要調査結果（概要）

【図表2】国別外国人宿泊客数（延べ人数）



3 満足度調査（P.29～）

▶ 京都観光の総合満足度

・日本人 R⑤ 93.9%（R① 91.3%）

【R⑤ 個別満足度(上位)】

寺院・神社、名所・旧跡 95.1%、自然・風景 91.4%、伝統文化 88.5%

・外国人 R⑤ 98.1%（R① 97.6%）

【R⑤ 個別満足度(上位)】

寺院・神社、名所・旧跡 98.6%、街の清潔さ 98.0%、自然・風景 97.7%

▶ 残念なことがあった観光客の割合

・日本人 R⑤ 43.0%（R① 44.7%）

【R⑤ 個別残念度(自由記述上位)】

人が多い・混雑 30.8%、電車・バスなどの公共交通 8.9%、マナー 8.0%

・外国人 R⑤ 16.3%（R① 16.3%）

【R⑤ 個別残念度(自由記述上位)】

人が多い・混雑 21.7%、電車・バスなどの公共交通 15.8%、時間が足りなかった 11.3%

4 実態調査（P.41～）

▶ 京都への訪問回数

・日本人
 初めて R⑤ 2.0%（R① 1.4%）
 2回目～9回目 R⑤ 41.5%（R① 39.5%）
 10回目以上 R⑤ 56.5%（R① 59.1%）

・外国人※2
 初めて R⑤ 73.3%（R① 75.1%）
 2回目～4回目 R⑤ 23.4%（R① 20.0%）
 5回目以上 R⑤ 3.3%（R① 2.4%）

▶ 事前情報源(上位)

・日本人
 SNS・口コミサイト R⑤ 25.6%（R① 20.2%）
 ホームページ R⑤ 25.2%（R① 26.9%）
 旅行ガイドブック R⑤ 24.4%（R① 27.2%）など

・外国人
 家族・友人 R⑤ 47.6%（R① 51.8%）
 SNS・口コミサイト R⑤ 42.2%（R① 28.9%）
 旅行ガイドブック R⑤ 22.3%（R① 30.7%）など

5 持続可能な観光に対する意向調査（P.73～）

～令和3年から調査開始、外国人向け調査は本調査が初～

▶ 訪問先の地域の生活を守りながら観光をしたいと考えている観光客の割合

・日本人 R⑤ 56.7%（R④ 50.1%）
 ・外国人 R⑤ 60.8%

▶ 訪問先の地域を思いやる行動を取った観光客の割合

・日本人 R⑤ 67.0%（R④ 66.7%）

【R⑤ 具体的な行動(自由記述上位)】

ゴミを持ち帰る 45.7%、観光地・生活者への配慮 21.3%、マナーを守る 14.1%

・外国人 R⑤ 80.2%

【R⑤ 具体的な行動例(自由記述上位)】

観光地・生活者への配慮 34.9%、敬意を払う・礼儀正しくする 20.3%、マナーを守る 12.1%

※1 観光庁発表統計から作成。

※2 令和元年の外国人調査結果は「無回答」を含め百分率を求めているため、合計が100%にならない。

【参考1】「持続可能な京都観光」の実現に向けた令和6年度の主な取組

令和6年度の取組の視点

- **市民生活と観光の調和の下、市民の暮らしの豊かさの向上につながる「持続可能な京都観光」の実現に向けて、**
 - ・ 一部観光地の混雑等の観光課題対策に全庁を挙げて強力に取り組む。
 - ・ 「京都観光行動基準（京都観光モラル）」の普及・実践の促進や、観光に対する市民の共感の輪の拡大を図り、市民生活と観光のより一層の調和を推進する。
 - ・ 京都観光の質・満足度を高める取組を進め、観光・文化・経済の好循環の創出につなげる。

令和6年度の主な取組

1 観光課題対策

▶観光地の混雑対策

- ・ 時期・時間・場所の3つの分散化
 - [時期] 閑散期における誘客キャンペーンの実施(産観)
 - [時間] 朝・夜観光等コンテンツ造成【R6新規】(産観)
 - [場所] 府市連携による周遊観光の促進など、多様なエリアにおける魅力発信【R6充実】※(産観)
- ・ ビッグデータ等を活用した混雑状況・観光快適度の見える化(産観)

▶道路の混雑対策

- ・ 嵐山における回遊ルート誘導実証等の交通対策【R6充実】※(都計)
- ・ 観光バスの路上滞留対策【R6充実】(産観)
- ・ パークアンドライドの推進(都計)

▶市バスの混雑対策

- ・ 「観光特急バス」の新設や御利用状況に応じた輸送力の再配分・増車等【R6新規・充実】※(交通)
- ・ 「古都京都の文化財」世界遺産登録30周年を契機とした市バス周辺路線への誘客【R6新規】※(交通)
- ・ 地下鉄をはじめ鉄道を生かした移動経路の分散【R6新規】※(交通)
- ・ 市バスの運行情報の更なるオープンデータ化【R6充実】(交通)

▶手ぶら観光の推進

- ・ 市内の宿泊施設等を巡回する専用バスの導入実証【R6新規】※(産観)
- ・ 臨時手荷物預かり所の設置・運営等【R6充実】(産観)

▶京都駅一極集中の緩和

- ・ 交通混雑緩和に向けた情報発信等の強化【R6充実】※(都計)
- ・ 京都駅新橋上駅舎・自由通路整備【R6新規】(都計)

▶マナー対策

- ・ 観光マナーをはじめとした観光課題に対する啓発【R6充実】(産観)
- ・ 不法投棄・散乱ごみ対策(環境)

▶民泊対策

- ・ 民泊通報・相談窓口の運営、是正指導等(保福)
- ・ 「民泊」の適正な運営を確保するための条例の運用(保福)

2 市民生活と観光の一層の調和の推進

▶京都観光モラルの普及・実践の促進

- ・ 課題対策や京都観光モラル等に係る海外向け情報発信の強化【R6新規】(産観)

▶観光に対する市民の共感の輪の拡大

- ・ 観光がもたらす効果や、事業者による市民向けサービス情報等の発信による市民共感の促進【R6新規】※(産観)

3 京都観光の質・満足度の向上

- ・ 文化芸術をはじめ京都の多彩な魅力を活かした朝・夜観光コンテンツの造成【R6新規】(再掲)(産観)
- ・ 文化財における高付加価値な観光コンテンツ造成【R6新規】(産観)
- ・ 宿泊事業者の担い手確保等支援【R6新規】(産観)

今年度新たに設置した「市民生活と観光の調和推進プロジェクトチーム」等において対策の検討や効果検証を行うなど、全庁を挙げて取組を推進

【参考2】 京都観光総合調査 調査手法【概要】

- 京都市では、「京都観光総合調査」について、昭和33年から65年以上の長きにわたり、内容を充実させながら実施してきた。現在の調査手法は以下のとおり。
- これに加え、令和3年から新たに「京都観光に関する市民意識調査」、「京都観光事業者実態調査」及び「京都観光従事者実態調査」を実施し、京都観光を取り巻く現状の総合的な把握に努めている。

観光客の定義

観光客とは、観光目的だけでなく、市外在住で通勤、通学以外の目的（ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等）で入洛した人全てを含む

観光客数調査

「観光入込客統計に関する共通基準」（平成21年12月観光庁策定）※に基づく手法により調査し、各月及び総数を推計。

※ 京都市の都市特性を反映させながら全国共通基準にも合致する手法で実施。

全国共通基準	観光地点を訪れた入込客数を基に、観光客へのアンケート調査の結果を活用し推計
本市の手法	京都市域全体を一つの観光地点と見立て、入洛利用交通手段別（鉄道、高速バス、自動車）の入込客数を基に、観光客へのアンケート調査の結果等を活用し推計

宿泊客数、修学旅行生数調査

本市宿泊税データを基に、観光庁から提供される宿泊客数データや京都市内の宿泊施設へのアンケート調査の結果を活用し推計。

消費動向、満足度、実態、持続可能な観光に対する意向調査

無作為に調査対象者を抽出、郵送回答や面接調査によりアンケートを実施。

区分	調査
調査時期	冬期（2月）、春期（5月）、夏期（8月）、秋期（11月）
調査場所	【日本人】市内の主要な鉄道駅、観光施設等、全13箇所 【外国人】市内の主要な観光施設等、全6箇所
調査項目	性別、年齢、出発地、利用交通機関、日数、目的、動機、市内訪問地、観光消費額、満足度、感想、サステナブルな旅行に対する意向 など
サンプル数	令和5年 【日本人】4,077 【外国人】1,696